

認知症高齢者暴力リスクアセスメントシート開発のための基礎研究—認知症高齢者の暴力誘発因子の解明—

高橋智美、塚本康子
新潟医療福祉大学 健康科学部 看護学科

【背景・目的】 認知症に伴う心理・行動症状には興奮、攻撃という行動症状がある。実際に認知症による暴力を理由に入所や利用を断ったことがある介護老人保健施設は17.9%であり、病院では75.3%のスタッフが認知症入院患者からの暴力を経験している。本邦には、医療の場で起こる暴力や攻撃性に対して適切に介入するために開発された包括的暴力防止プログラムとウェブスターらによって開発された司法精神医療領域における暴力行為のリスクアセスメントツール START がある。START は、その信頼性と妥当性の評価から15カ国で使用され、本邦でも菊地らにより START 日本語版の開発が進められている。しかし、START には暴力のみならず、自傷、自己怠慢も含まれており、暴力行為のみのリスクアセスメントツールとはいえない。また CVPPP は研修を受けてもその概念が理解されにくく、暴力が発生したときの介入方法として捉えられている側面がある。そしてどちらも精神医療領域での使用に留まっているのが現状である。そこで本研究では誰もが簡便に使用できる認知症高齢者暴力リスクアセスメントシートの開発を目指し、その基礎研究として病院及び介護老人保健施設における認知症高齢者の暴力誘発因子の解明をする。

【方法】 A 市在所の病院・介護老人保健施設に勤務する看護師 200 名を対象に自記式質問紙（認知症高齢者から受けた暴力の内容、暴力の程度、暴力時の状況・時間・場所、加害者の背景、被害者の背景等の自由記載）による調査を実施し、調査票に記述された回答の文脈を考慮して記述内容を切片化、類型化した。またデータは整理番号制とし番号個人が特定されないようにした。本学倫理審査を受審し承認（17601-150708）を得た。尚、本研究は平成30年度新潟医療福祉大学学内研究奨励金を得て実施した。

【結果】 調査票の回収率は35%、有効回答率は100%であった。暴力の内容は言語的暴力、身体的暴力、性的暴力に大別された。暴力の程度は軽度の擦過傷や打撲から咬傷や受診を要する外傷とさまざまであったが、看護師は暴力行為を認知症高齢者の感情表出手段として捉えていた。そして暴力行為は認知症高齢者が抱く嫌悪感情に誘発されて生じており、それは羞恥心を伴う、自尊心を傷つける、もしくは双方が絡み合ったケアと、苦痛・不快を伴う治療処置、環境刺激の2点に大別された（表1）。また看護師は暴力被害が及ぼす影響として、認知症高齢者のベッドサ

イドへ足が向かなくなる、仕事に対するモチベーションが低下する、離職に繋がることをあげていた。更に認知症高齢者はその暴力により向精神薬が処方され、状況によっては転院を余儀なくされていた。

表1 認知症高齢者の嫌悪感誘発因子

羞恥心を伴う・自尊心を傷つける、もしくは双方が絡み合った日常生活援助上の因子	オムツ交換、トイレ介助
	入浴介助、清拭、口腔ケア
	更衣（下着、病衣、衣服）
	食事介助
	移乗、体位変換
	靴を履かせる
	行動静止
	体に触れる
	会話
	苦痛・不快を伴う治療・処置上の因子
点滴	
経管栄養	
経鼻チューブの挿入	
浣腸	
吸引	
創処置	
環境刺激因子	バイタルサインの測定
	検査
	光

【考察】 暴力誘発因子は認知症高齢者が抱く嫌悪感情から生じており、それは2点に大別された。まず1点目は羞恥心を伴う、自尊心を傷つける、もしくは双方が絡み合ったケアであった。戦前の教育を受けた高齢者にとって人前に肌をさらすことは強い羞恥心を伴う。そして下の世話を受けることはそれ以上の羞恥心とともに自尊心を大きく傷つける。そのため認知症を患っていても羞恥心や自尊心に影響を及ぼす行為に対しては必然的に嫌悪感を抱くといえる。2点目の苦痛・不快を伴う治療処置、環境刺激は認知症高齢者に限らず、誰もが多少なりの嫌悪感を抱く行為といえ、防御的な反応が暴力に繋がっているといえる。また先行研究と同様に病院・介護老人保健施設に勤務する看護師は認知症患者の暴力行為を感情の表出と捉えていた。しかしベッドサイドへ足が向かなくなる、仕事に対するモチベーションが低下する、離職に繋がるが抽出され、その行為の意味を理解していながらも感情的には受け止めがたい状況が見られた。2006年に日本看護協会は暴力対策を本格化させたものの、看護職員の確保定着対策で全く取り組まれていない第3位が暴力・セクハラ対策の整備であった。看護師の離職防止ばかりでなく、認知症高齢者の不要な転院を回避するためにも、認知症高齢者の暴力誘発因子といえる嫌悪感情誘発因子を専門家グループの助言を受けながら精選し、暴力防止対策に繋がる暴力リスクアセスメントシートの開発を進めていく必要がある。

【結論】 暴力行為は認知症高齢者が抱く嫌悪感情に誘発されて生じていた。そしてそれは羞恥心を伴う、自尊心を傷つける、もしくは双方が絡み合ったケアと、苦痛・不快を伴う治療処置、環境刺激の2点に大別された。